

田島中学校区 学校適正配置検討会議（第1回） 会議録

1 日 時 令和2年8月25日（火） 午後7時から

2 場 所 田島中学校 LL教室

3 出席者

（委員）

宇杉 清治委員（座長）、大倉 裕子委員、荻田 真司委員、鐘田 昭子委員、
北山 泰利委員、中島 孝治委員、福田 成隆委員、舩井 静香委員、光山 政浩委員

（学校）

藤本 睦子（田島中学校長）、竹口 和代（田島小学校長）、木村 幹彦（生野南小学校長）

（教育委員会事務局）

山口 照美（生野区長兼生野区担当教育次長）、櫻井 大輔（生野区副区長兼生野区教育担当部長）、忍 康彦（学校環境整備担当部長兼生野区役所こども未来担当部長）、樋口 義雄（総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長）、花月 良祐（総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長）、大川 博史（地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長）、三宅 俊之（総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理）、川楠 政宏（地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部教育政策課生野区教育担当課長代理）、松本 宏晃（学事課担当係長）、竹中 一郎（生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長）、白石 秀一（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務部教育政策課係員）、西川 明宏（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務部教育政策課係員）

（傍聴）1名

4 議題

（1）学校再編整備計画について

（2）検討会議について

5 議事要旨

（1）行政からの説明

【田島中学校区学校適正配置検討会議座長について】

（説明者：大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長）

- ・田島中学校区学校適正配置検討会議（以下、検討会議）に座長を設けることとし、過去の田島中学校区将来の学校を考える会へ参画いただいている経緯から、事務局より宇杉委員を座長に推薦する案を提案した。委員から異議がなかったため、宇杉委員が座長に就任した。

【学校再編整備計画について】

（説明者：大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長）

- ・議事資料1に沿って説明を行った。

【検討会議の進め方について】

(説明者：大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・議事資料2に沿って説明を行った。
- ・検討会議の進め方については、議事資料2に記載の3案が想定され、案①は全ての項目を検討会議で議論、案②は全ての項目を専門部会を設置して議論、案③は項目により、検討会議で議論するものと専門部会を設置して議論するものを分ける。

【検討のスケジュールについて】

(説明者：大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・議事資料3に沿って説明を行った。
- ・検討会議のスケジュールにおいて、9月から検討となっている通学路の安全対策については、現地確認を行い、各小学校区でご意見をいただく場を設けたいと考えている。そこでいただいたご意見を踏まえ、建設局、警察とも調整し、安全対策専門部会や小学校区ごとの分科会にフィードバックしながら、ブラッシュアップを行っていく。
- ・その他の検討項目については、校章・校歌の検討に影響を与えるため、校名の検討をまず初めに行う。校名を11月中までに議論を行った後、校章・校歌の議論に入りたいと考えている。

(説明者：花月学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・校名の検討の進め方について、議事資料4に沿って説明を行った。

(2) 意見等の概要

【検討会議の進め方について】

- ・専門部会を設ける場合には、検討会議委員が専門部会に参加することは可能か。
→専門部会は、検討会議の委員で構成する形を想定している。複数の専門部会を担当することも可能となる。
- ・各専門部会では中学校を対象とした検討は行わないのか。
→今回は2小学校での学校再編であるので、田島中学校はそのまま残り、新たな小学校が開校することとなる。ただし、施設一体型小中一貫校となるので、必須となる新たな小学校名に加え、小中一貫校の通称名を決めるということもある。小中一貫校の通称名は必須ではないが、これまでの大阪市における小中一貫校の事例では、全て通称名が定められている。
- ・小中一貫校と言われるとややこしい。田島中学校区内に新たな小学校ができるということを出した方がわかりやすい。
- ・田島中学校は田島中学校として、新たな小学校名と小中一貫校の通称を定めるということか。
→それが正しい。大阪市として学校を設置する条例があり、条例上では、田島中学校は田島中学校として残り、別に新たな小学校を1つ設ける形となるので、小学校と中学校がそれぞれ存在することとなる。小中一貫校の通称名は条例では規定しないが、過去の事例では通称名を採用するケースが大多数となっている。
- ・具体例を教えてください。
→住之江区の南港みなみ小学校と南港南中学校による施設一体型小中一貫校は咲洲みなみ

小中一貫校という通称名がついている。浪速区の浪速小学校と日本橋中学校による小中一貫校は日本橋小中一貫校という通称名がついている。わかりやすさや小中学校の一体感によりひとつのアピールとなるものと認識している。

- ・啓発小学校の事例もある。

→啓発小学校と中島中学校による小中一貫校むくのき学園、矢田小学校と矢田南中学校によるやたなか小中一貫校の事例もある。西淡路小学校と淡路中学校による小中一貫校では小中一貫須賀の森学園という通称名がついている。

- ・検討する事例として、それらも資料に掲載してほしい。

- ・校章・校歌、標準服については、田島中学校のものは検討項目にあがっていないということでしょうか。

→本計画については、2小学校を1小学校として、田島中学校に小中一貫校を設けるという内容であるので、中学校の校名はそのままであり、新たにできる小学校について校名、校章・校歌等が必要となると認識している。

- ・せっかくの新しい学校なので、通称名を付けた方が良くはないか。校名、校章・校歌は検討会議で検討し、標準服は子どもが着る物であるので保護者に入ってもらい、通学路の安全対策については地域が入る、議事資料2内の案③の形がうまく進むのではないか。

→小中一貫校の通称名の事例や、大阪市の小中一貫校における校章・校歌の事例については改めてお示しする。検討会議の進め方として、検討会議で意見交換を進めるのか、専門部会を設置するのかといったところについてご意見をいただきたい。

- ・各専門部会で疑問点を煮詰めていきたいと思う。専門部会を設置するのであれば、事務局からも説明してもらい、今後の日程に加えていきたい。

【通学路の安全対策について】

- ・通学路の安全対策については、各小学校に分かれて検討すべき内容もあれば、例えば、グリーンラインだけでは対策が不十分な場合や、車の通行量や路上駐車の高さにどう対応するか等、行政としてさらに取り組んでほしいと思える両小学校区共通の課題もあり、そのような内容が一番心配だという保護者の意見もある。各小学校区ではなく、全体で検討する場もほしい。

【校名について】

- ・校名、通称名の検討を早急に進めていきたい。これが決まらなければ校章・校歌の検討も進まない。検討会議委員にも次回の検討会議までに校名の案を考えてほしい。

→議事資料4にてお示ししている、校名案の進め方について、今回の検討会議にて方向性を決めたいと考えている。一般公募を行うにあたっては、対象を校区内や区内とする等、募集範囲を限定することもでき、範囲を限定せずに全国公募をすることもできる。

検討会議内で検討するとすれば、宇杉委員よりご意見のあったとおり、案を持ち寄り検討する形も可能である。

次回の検討会議では、本日決まった方向性に合わせて、事務局から詳細な進め方の提案を行いたい。その後の進め方としては、集まった校名案を検討会議にて絞り込み、児童生徒へのアンケートを実施して、その結果をもとに検討会議で決定していくことを想定している。

- ・公募を行うか、検討会議で検討を行うか、また、各連合においてアンケートをとることも考えられるが、時間的な関係もあるので、早急に決めていきたい。
- ・今日、進め方の方法を決めるのか。
 - 次回でもよいが、一般公募か、検討会議で検討するのかといった方向性はできれば今回決めたい。
- ・方向性は今回で決まってしまうということか。
 - 今回決めがたいということであれば、一旦、持ち帰っていただき、どの方向性がよいか議論いただき、次回の検討会議でご意見をいただきたいが、日程としては詰まってくる形となる。
 - 今回は持ち帰って各組織で議論いただき、委員から案を出していただくということでもよいし、案を出しながら公募も行うという形でもよいと考えている。桃谷中学校の事例では、公募は行っていないが、部会委員の案と行政案から絞り込み、生徒にアンケートを行った。次回の検討会議で行政案を提示することもできる。
- ・案というのは学校名の案か。
- ・校名案を公募するとなれば、どれほどの時間を要するのか。また、公募をするとなれば、全くの白紙から校名の公募を行うのか、それとも候補を示し選んでもらう形とするのか。
 - 公募となれば、校名案の募集そのものとなる。
 - 他の公募の事例に照らせば、新たな学校の開校の背景を示し、それを踏まえたご提案を求める要件をつくることとなる。ただし、非常に多数の校名案がでてくる場合もあるので、絞り込みの作業も必要となる。また、一定の公募期間を設けることとなるので、案を持ち寄る形の方が、検討にかかる時間も短く、スムーズに進むこととなる。
- ・校名案を公募するとなれば、対象は連合となるのか。それとも大阪市全域となるのか。
 - 公募の範囲は検討することができる。
- ・11月に決定するというスケジュールを考えると、時間がない。範囲はどうすべきか。
- ・大池小学校の事例ではどれぐらいの時間がかかったのか。募集の範囲はどうしたのか。
 - 大池小学校の校名検討の際には、市内在住者を対象に公募期間を1か月設け、決定まで4か月ほどかかった。
 - 並行して議論を進めている生野中学校区では、学校名を全国公募し、70件程度の応募があった。児童生徒の投票を行うにあたり、この約70件を7候補に絞り込む作業を行ったが、それにも時間を要した。
 - 公募を行えば新たな学校ができるというアピールにもなる。募集範囲により締切も変わってくる。
- ・公募はどのような方法により行うのか。生野区のホームページとなるのか。各新聞に広告を出すのか。
 - 基本的には区のホームページを予定している。
- ・校名は子どもたちにも考えてもらえばいいと思う。自分たちの学校について、子どもたち自身で考えて決めたということが大事だと思う。
- ・連合でアンケートをとれば硬い校名案が多くなるのではないか。子どもたちの意見も採り入れるべきだと思う。

- ・校名検討の方向性としては、田島中学校区を対象範囲とした校名案の公募を行うということで良いか。検討会議において、様々な手法を用いて 10 案程度に絞り込んだ候補について、児童に印象をたずね、11 月に校名を決定するというスケジュールでどうか。
 - ・それで良いと思う。各学校で児童生徒個々に案を出してもらうのか、例えば、クラス単位で意見をまとめるか案を出すといった児童生徒が楽しめる形で各学校に取り組んでもらうこともできるのではないか。
 - ・日本橋小中一貫校は同じ敷地内に名前が違う小学校と中学校がある状態だが、それによって混乱はないのか。
→混乱しているという話は聞かない。校区の方には日本橋小中一貫校という通称名になじみがあるようだ。
- (荻田委員のご提案について、事務局から再度ご意見を求めたところ、異議なし)
- 公募範囲を田島中学校区内とし、各学校は児童生徒から校名案を出していただくということではいかか。
- ・地域からも校名案を出すということではどうか。
→田島中学校区内で一般募集を行うとし、児童生徒、保護者には学校を通して、地域の方には回覧等を通してご案内を行う。次回の検討会議において、募集の案内をご確認いただき、その後募集に入るということではいかか。募集期間は1か月より短い期間とし、10月下旬の検討会議において、応募のあった校名案をご覧いただき候補の絞り込み作業を行う。その後、11月に児童向けのアンケートを行い、その結果を11月下旬の検討会議にてお示しし、校名を決定するスケジュールではいかか。
- (木村生野南小学校長)
- ・児童の投票結果は参考となっているが、それに反する決定はできないだろう。校名は長く地域に根づくものになるが、投票の結果で決めるとなると、流行や嗜好に影響された校名になってしまう可能性もあるのではないか。
→投票結果が僅差になる可能性もあるので、あくまで参考として、児童生徒の意見をくみ取りながら検討会議において選定を行っていききたい。
 - ・校名案からいくつかの候補に絞り込みを行う過程で、奇抜な名称はなくなっていくのではないか。
→全ての校名案を投票にかけるわけではない。
 - ・そもそも、「投票」という文言が票を投じて決めることとなるので、いかななものか。アンケートや印象調査とした方が良いのではないか。
 - ・イメージ調査等ではどうかと思うが、1番人気があった候補が採用されなければ子どもたちも困惑するのではないか。
→学校名が決まった理由をしっかりと議論し、説明を行っていくことが重要であると考えている。
→子どもたちの意見が流行や嗜好に影響されるかもしれないので、大人の感性でチェック機能を果たすという理解でよいのではないか。
 - ・校名案の公募にあたっては、新たな小学校の校名と小中一貫校の通称名の両方を募集することとするのか。

→両校名がちぐはぐなものになることを避けるため、まずは新たな小学校の校名のみを決めるということではいかがか。

- ・今回は通称名を決めないということか。「〇〇小中学校」とするということか。
→先に小学校名を決定し、その次の段階で小学校名に合った小中一貫校の通称名を決めていく2段階の検討を行ってはどうか。
- ・通称名を決めるのは少し後になるのか。
(木村生野南小学校長)
- ・必ず2段階とすることと決まっているのか。
→決まっているものはないが、混乱を避ける目的がある。
→混乱を生じさせない募集の方法もあると考えられるので、ご意見をいただきたい。
- ・例えば、アンケート用紙に小学校の校名、通称名と2ヶ所記載を設ける等、アンケートのとり方によっては、両校名を同時に募集することもできるのではないか。
- ・中学生にも小学校の校名を考えてもらうこととするのか。誰に何を聞くのか。
- ・単純に多いもの同士を組み合わせるとちぐはぐになるかもしれない。
- ・自由ととにかく案を出してもらえればいいと思う。いきなり完璧なものができるとも思わないので、たくさん案を出るなかでまとまりをつくって10月に案をできるのであれば、ざっくりとした募集をすればよいのではないか。
- ・ひとまず、小学校名を決めてはどうか。
- ・両校名を募集しても良いと思う。同じような校名案をまとめ、ふるいにかければ、おさまりが良いものを精査できるのではないか。
- ・小学校名のみでも、両校名を同時でも、どちらでも自由としてはどうか。
- ・この段階で厳密さは必要ないと思う。

(木村生野南小学校長)

- ・先に小学校の校名のみを決めるとすると、両校名の組み合わせの選択肢が狭まるのではないか。例えば、「田島小学校」、「生野南小中一貫校」といった組み合わせは、同時に募集すればあがってくる案となるかもしれないが、先に「田島小学校」と決まっていれば「生野南小中一貫校」という通称名案は発案されないのではないか。
- ・小学校名のみで募集を行うか、両校名の募集を同時に行うか決めたい。
→現在、両校名の募集を同時に行う案をいただいている。

(新たな小学校の校名と小中一貫校の通称名を同時に募集することについて委員より賛同)

→新たな小学校の校名とあわせて小中一貫校の通称名を同時に募集することとする。また、検討会議の進め方についても、校名、校章・校歌は検討会議で検討し、標準服、通学路の安全対策は専門部会で検討するというご意見が多かったが、その形で良いか。

(委員より異議なし)

→通学路の安全対策については、両小学校区で合同の意見交換の場も必要だというご意見も受けている。

【標準服について】

- ・中学校の標準服は変更しないのか。学校長としては、現在の中学校の標準服について、生徒の評判や思いをどのように感じているのか。

(藤本田島中学校長)

- ・生徒は現在の標準服になじみもあり、愛着を感じているものと思う。
現在は、男子は詰襟タイプ、女子はセーラー服となっているが、夏服冬服の移行期間の設定や、気温調整の難しさもあり、ブレザーを採用する中学校が多くなってきている。他校もブレザーに変わってきているなかで、田島中学校でも生徒の意見を聴きながら、性差、LGBT への配慮も含めて、標準服について検討する時期にきているかと考えている。
生徒からも意見が出ていることもあり、小学校の標準服と併せて検討するには良いタイミングとなると思う。
- ・中学校の標準服は変わらないものと理解していたが、時代にあったものに変更する機会と
考えて、中学校も含めて新たな標準服を設定し、貸与することはできないか。
→令和4年4月時点で標準服の買い替えが必要となる方を対象とした貸与として、中学校は貸与の対象に入らない形で想定していた。しかしながら、今回、ご意見をいただいたことを受け、中学生への貸与についても可能か否か検討を行いたい。
- ・標準服が変わるとなれば、本来不要な出費が必要となる。中学生も新しい気持ちになれるし、保護者としても喜ばしいと思える。
- ・桃谷中学校の事例はどうなっているか。
→桃谷中学校の事例は、勝山中学校と鶴橋中学校による中学校同士の学校再編であったので、今回の考え方と同じく、当時の中学2、3年生を対象として行政から貸与を行った。
- ・元々は行政からの標準服の貸与はないという話であったか。
→学校再編に伴い、買い替えが必要となるものについて行政が負担することは基本的な考え方としてある。

【その他】

- ・新たな小中一貫校では、6年生になれば新小学校を卒業し、田島中学校の1年生に進学する形となるという理解でよいか。
→学校種は小学校、中学校、義務教育学校の3種類しかないので、小中一貫校卒というものはない。6年生が終われば、新たな小学校を卒業という形になる。ただし、小中一貫した教育を行ううえで、中学1年生に相当する学年を7年生と呼んでいる学校もある。
- ・田島中学校区の新たな小中一貫校でも、中学生を7年生～9年生とする可能性もあるのか。
→今後、そのような形をとった方が良いとなれば、そういった選択をとる可能性もある。
学校と協議し形づくっていくこととなる。
- ・教室配置について意見を出したい。令和2年8月に行われた説明会資料では、図書室が新棟最上階の端に配置となっており、小中学校で1つしかない。小学1年生の教室が1階になるなら、遠くなってしまうし、2階、3階の学年にとっても、新棟への通路が1階にしかないのでは、登ったり降りたりをしないとイケなくなる。児童生徒が行きやすく、図書館が利用されやすくなるようにしてほしい。また、特別教室の配置もバラバラになっている印象を受ける。例えば、理科室から音楽室に移動する場合等も想定し、通路やアクセスが散らばらないよう検討してほしい。
- ・遊具の配置や内容にも違和感がある。教室を出てすぐに上り棒があるのはあまり一般的ではないと思うし、小運動場に遊具が集中する配置となっているのではないかと。また、現在、

両小学校にある総合遊具は配置していただけるか検討をしてほしい。

- 国で学級定数を低学年で 30 人、高学年で 35 人とするうごきが出ていると耳にしたが、もしもそうなれば、さらなる教室の増築が必要になるのではないか。そうであれば、教室配置を検討できるこの時期に、さらに教室を確保できる形を考えることもできないか。今後、感染症の拡大等により、少人数での授業実施が必要になった際にも対応できる作りを検討してほしい。新棟は職員室、給食室が入り、教室以外が半分程度を占めている。給食室は校舎の端に配置することはできないか。
- 職員室の位置についても、1 年生の教室の真上の 2 階となれば、死角となってしまうのではないか。現在の職員室の位置は、正門から近い 1 階にあり、どこにでも向かいやすく、有事の時にはすぐに対応できる場所ということではないのか。現在の職員室を改修し大きくすることも考えられるのではないか。
 - 今回の検討会議で即答することは難しいので、一度持ち帰り、関係各所と調整したい。教育内容だけでなく、施設に関する内容もあるので、どこまでできるか、何を重要視するかについても確認する。
 - 教室配置については学校長からの話も聞き、教育的な視点も踏まえて検討構築してきた経過がある。どうしてこういう配置になったのか、変更できるのだとすればどこまでできるかについて確認し、次回会議以降然るべき時期に回答させていただく。
 - 校舎の建築については、今後、市会において契約承認をいただき、工事を進めていく。事業者と契約後、工事内容、スケジュールも含めた工事の説明会を行う予定と聞いているので、工事担当部署とも調整を行っていききたい。
- 教室配置や工事スケジュールについての説明会を検討会議のなかで行うのか。
 - 事業者から聞き取った内容を検討会議で報告する。
- 検討会議委員は地域、保護者の代表として会議に出席している。一般向けの説明に先立ち、検討会議委員に対してプレ説明会的なものがあって然るべきではないか。
 - 工事担当部署に伝え、調整していききたい。
 - 検討会議の場での説明も必要と考えている。生野南小学校区からもご意見があればお伝え願いたい。
- 田島小学校は第 2 運動場として活用するが、新型コロナウイルス感染症の感染がさらに拡大し、その対処のため教室不足となった際に、第 2 施設として使えるように検討できないか。田島小学校跡地のより良い利用方法について検討する部会があっても良いかと思う。
 - これまでの生野区における計画の進め方として、各小学校区で学校跡地検討会議を設け跡地活用の検討を行っているが、田島小学校については、第 2 運動場として残るので、これまでのパターンとは異なる部分もある。検討会議での議論の内容とも異なるので、学校跡地活用担当とも連携し、何らかの形をお示ししたい。
- 中学校と第 2 運動場の間は接続できるよう安全確保をすべきものと思うが、グリーンラインが途中で切れた案になっている。田島小学校跡地の第 2 施設としての使い方は、安全対策や教室配置にも関係してくる。検討会議の議論に含めるかは任せるが、検討がリンクするようにしてほしい。

(3) 確認事項等

- ・宇杉委員を検討会議の座長とする。
- ・検討会議の進め方について、校名、校章・校歌は検討会議で検討し、標準服、通学路の安全対策は専門部会で検討することとする。標準服については保護者を中心とした専門部会で検討する。通学路の安全対策については、小学校区毎の専門部会で検討を行うとともに、両小学校区に共通する内容については、合同で検討を行う。
- ・新たな学校の校名案については、田島中学校区内の住民を対象に一般公募を行うとともに、各学校を通じて児童生徒から募集する。また、新たな小学校の校名とあわせて小中一貫校の通称名を同時に募集する。
- ・校名案の検討について、次回の検討会議において、校名案募集の案内をご確認いただく。そのうえで募集を行い、10月下旬の検討会議において、応募のあった校名案をご覧いただき候補の絞り込み作業を行う。その後、11月に児童向けのアンケートを行い、その結果を11月下旬の検討会議にてお示しし、校名を決定するスケジュールで進める。
- ・次回の検討会議は9月15日（火）に田島中学校LL教室にて開催する。

6 会議資料

- ・田島中学校区 学校適正配置検討会議（第1回）次第
- ・配布資料1 田島中学校区 学校適正配置検討会議開催要綱
- ・配布資料2 田島中学校区 学校適正配置検討会議 委員名簿
- ・議事資料1 田島中学校区 学校再編整備計画
- ・議事資料2 検討会議の進め方
- ・議事資料3 全体スケジュール
- ・議事資料4 校名案の進め方（案）